

植物の種多様性の解明とその保全



准教授 鈴木 浩司

研究分野

植物分類学、生物多様性、分子系統学、花生態^(*)、生活史^(*)、保全

研究内容

持続可能な社会の構築には、自然環境との調和が重要であり、そこにある生物多様性を正しく理解する必要があります。野生植物を対象に、種の分布や分類学的研究のほか、花生態や生活史などの解明を進めています。

私の研究のポイント

生物多様性を明らかにするには、種を正しく認識(分類)することが重要です。日本産植物の分類は十分に解明されていると思われがちですが、まだまだ不明なことが多いです。外部形態だけでなく、DNA情報や化学的・生態学的な情報も用いて、より正確な種認識を行い、そこから、生物多様性(形態や機能の多様性)の形成・維持機構の解明を進めています。また、希少な種の保全も行っています。

REPORT リポート



南米コロンビアのモクレン属の1種。雄ずいの先端が糸状になり、雌ずい群にぶら下がる変わった特徴を持つ。



東西両大陸に隔離分布するモクレン科の分布(灰色部分)。形態的にも系統的にも近縁な種が隔離分布している。写真上は日本産ホオノキ、下は北米産 *Magnolia tripetala*。



アケビ(左上)は人里に、ミツバアケビ(右上)は山地に見られる。両者の雑種であるゴヨウアケビ(右下)がまれに見られる。ゴヨウアケビは中間的な形態形質をもち、また、花粉の雑性もあるため、親種と浸透性交雑^(*)をしている可能性がある。



国内では長崎県対馬にのみ生育するアレチアザミ。かつては島内に広く分布していたが、現在では1集落にのみ生育する。国内絶滅に備えて、栽培維持している。